

SDGs 宣言達成状況報告書

私たちは、宣言書に記載した取組目標の達成状況を次のとおり報告し、持続可能なまちづくりに向けて、次のとおり取り組むことを宣言します。

報告日 2023 年 2 月 2 日

事業所・団体等又は関連事業者等としての2030年の（又は中長期的な）あるべき姿			
社会福祉法人として地域に信頼され、無くてはならない存在となり持続的な地域福祉の実現に貢献する。			
事業所・団体等又は関連事業者等としてのねらい、特徴的な活動			
法人の持つ施設と人材を最大限に活用し、福祉サービスの提供と住民や関係機関との連携を図りながら、地域、職員、利用者が幸せになれるような事業運営と支援活動を行っている。			
目標に関連する取組内容			
ゴール	2022 年12月31日までの取組目標	左記取組目標の達成状況	2023 年12月31日までの取組目標
	一般社団法人及び学生ボランティアと連携した生活困窮家庭児童の居場所づくりと学習支援活動を継続し、それらに参加する新たなボランティア、職員を合計で5名増やす。	・学習支援と生活支援活動を週1日ずつ、年50日実施し、学習支援で延べ約280名、生活支援で延べ約550名の児童への支援を行った。 ・新たな学生ボランティア8名が参加した。	・一般社団法人及び学生ボランティアと連携した生活困窮家庭児童の居場所作りと学習支援活動の開催（各50日/年）及び参加ボランティアと職員を合計で5名増やし前年と同数の支援を継続する。
	一般社団法人と連携し実施する生活困窮家庭児童支援において、持ち帰り夕食の無償提供としても継続する。	・学習支援、生活支援活動時持ち帰りの夕食を無償提供。 ・2022年は福祉医療機構の助成を受けコトやや災害や給与が減少した世帯へ食料支援を行った。	・一般社団法人と連携し実施する生活困窮家庭児童支援において、夕食の無償提供を前年と同数実施する。 ・必要な世帯への食料支援を前年と同数実施する。
	学校、地区社協、民生委員、町内会等との更なる連携強化を図る。また北沼上学区自治会連合会と協力し移動支援に関する話し合いを再開する。	・北沼上学区高齢者の買い物移動支援を地区社協と連携し運行開始した。 ・2月に西奈図書館にて専門職が推薦する書籍の展示を行った。	・西奈地区社協と連携し目的地までの移動支援で延べ40名の利用を目指す。 ・西奈図書館と連携し専門職が推薦する書籍の展示を年1回実施する。
	西奈地区児童の学習支援と不登校児童への支援に関わるボランティア・職員を増やし、支援や連携の増回を図る。また自主夜間教室への参加を継続する。	・毎週1日ずつ学習支援と不登校児童の居場所活動を継続し不登校児童生徒3名の新たな受け入れを行った。 ・自主夜間教室へ毎月参加はできなかったが必要時に参加した。	・西奈地区児童の学習支援と不登校児童への支援に関わるボランティア・職員を5名増やす。 ・自主夜間教室へ3回/年参加する。
	空調設定温度の明示と周知を引き続き図り、消費電力の2%削減を目指す。	コトや禍による常時換気の徹底により消費電力が増加したため、削減目標を達成できなかった。	太陽光発電パネルと蓄電池を新たに設置し、空調設定温度の明示と周知を引き続き図り、不要な照明と空調の節約により消費電力の2%削減を目指す。
	職員の離職率10%以下を目指す。	正規職員離職率10.1%、非常勤職員離職率16.3%、合計で13.2%となり目標達成できず。	・職員の離職率10%以下を目指す。 ・グッズ・ギフト・サックスカードの年1,000枚提出を目指す。
	就労に課題を抱える若者の継続的な雇用への支援を進める。障がい者のやりがい創出や地域との交流機会をさらに増やす。	・就労課題を持つ若者6名を支援した。 ・障がい者生活介護事業所にて企業から仕事請負い内職を実施し工賃支払いと地域のお祭りで販売を実施した。	・就労課題を持つ若者5名以上に継続的な雇用支援を行う。 ・内職工賃と販売額を10%アップさせ障がい者のやりがい創出や地域との交流機会をさらに増やす。
	施設車輛活用の無料バス運行と青色防犯パトロール、野菜販売場所の提供、老人会のサポート、認知症カフェの別会場でも開催を継続する。	・5月より地区社協と連携し買い物移動支援バスの運行を開始した。 ・青色防犯パトロールを年83日実施し中央署より表彰された。認知症カフェはコトやにより6回中止したが延べ149名が参加した。別会場での認知症カフェ実施はコトや禍により中止した。	・施設車輛活用の無料バス運行を実施し延べ40名の利用を目指す。 ・青色防犯パトロール日数80日/年、野菜販売場所の提供、老人会のサポート、年200名の認知症カフェ参加を目指す。
	不要な電気の節約、裏紙の使用、古紙のリサイクル、事務機器等のリサイクル、ペーパーレスへのIT活用の徹底を継続する。	パソコン及びタブレットの配備を増やし記録媒体のICT化によりペーパーレスを図った。	ICTによるペーパーレス化によりコピーと印刷の紙を10%削減する。
	ウォーターサーバー2台の増設により、さらにマイボトル持参を拡げ、紙コップやペットボトルの使用を減らす。	職員用自動販売機を小型化しペットボトルの消費を減らした。職員へのマイボトル使用啓発を継続した。	職員のマイボトル持参割合を5%増やし、ペットボトル使用量を削減する。
	環境に良い有機肥料での野菜栽培、環境に優しい新素材による名刺の使用を継続する。	地元農家の野菜販売に使用するビニール袋をバイマスのものに変更。パルプ不使用名刺の使用を継続。	地元農家の野菜販売額を5%増やし、家計の支援と廃棄削減に貢献する。
	送迎車両等へSDGsステッカー貼付、職員へSDGsバッジ配布、自社ホームページでのSDGs取り組み報告等を継続する。	・車輸入替後もSDGsステッカーを継続 ・県立大学SDGsフィールドワークに社会福祉士が対応	・SNSを活用したSDGs取り組み投稿を年6回行う。 ・行政等主催のSDGs啓発行事へ年1回参加する。